

SWCCグループ

2020年3月期 第2四半期
決算補足説明資料



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

November 5, 2019

<https://www.swcc.co.jp>

2020/3月期 第2四半期決算総括

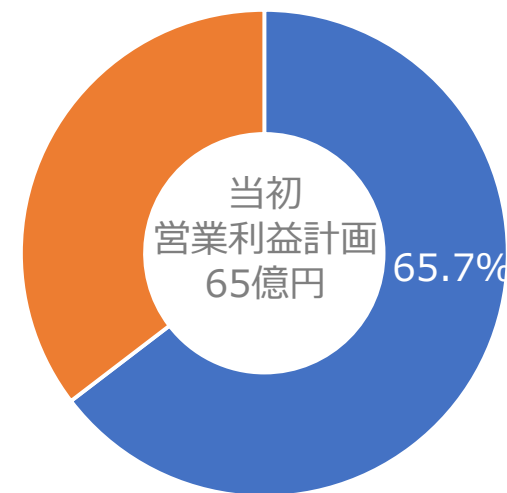
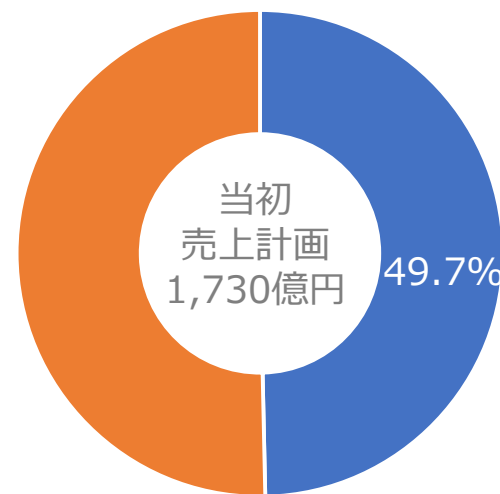
業績：業績は堅調に推移、営業利益は前年同期比+89%増益

- ・ エネルギー・インフラ事業は、東京オリンピック・パラリンピック需要等による建設関連向けが堅調。また電力インフラの設備更新需要等も堅調に推移し増収・増益。
通信・産業用デバイス事業は、海外の光ファイバが低調な結果となりセグメント売上減少。国内建設関連向け通信ケーブルが好調で減収・増益。
- ・ 電装・コンポーネンツ事業は、電装品向け高品位線材は堅調。巻線需要は全体的に減少し、減収・減益。

2Q進捗率（売上高/営業利益）（単位：億円）

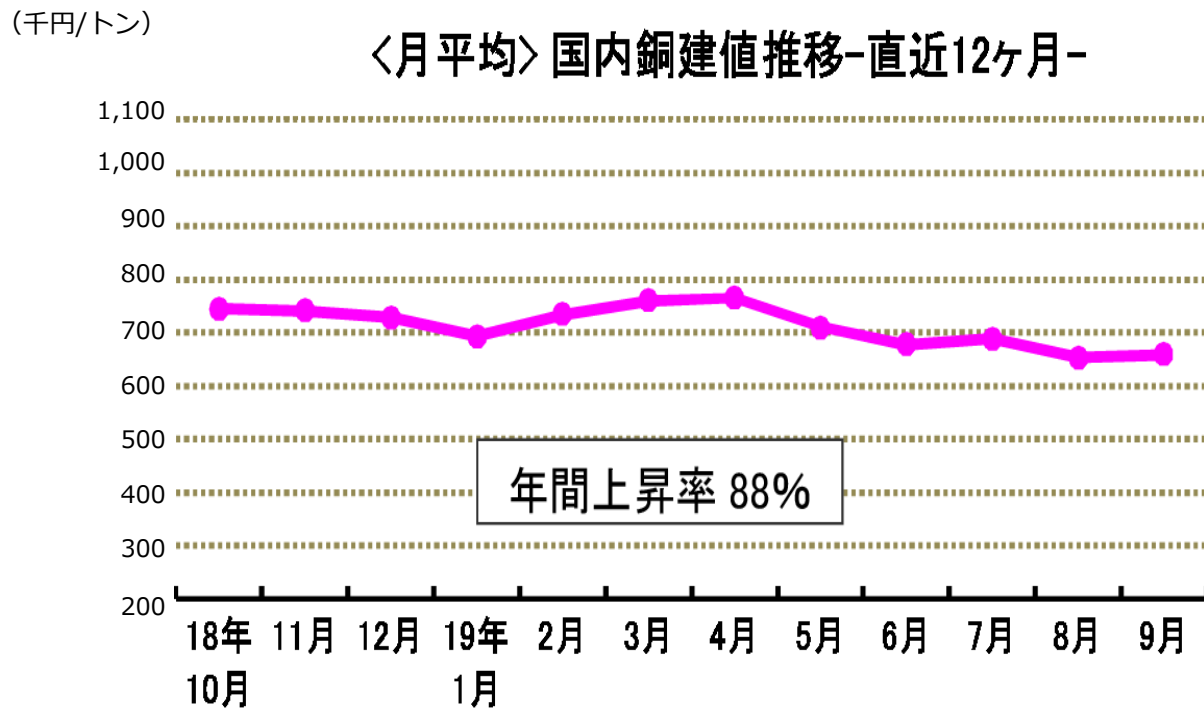
施策面：

- ・ 建設・電販向けは価格適正化を目指す。
- ・ 電力システム事業は新ビジネスモデルを推進。
- ・ 自動車向け製品の安定供給策を推進。
- ・ 業務効率改善による経費削減。
- ・ 収益性向上（営業利益率UP）を継続

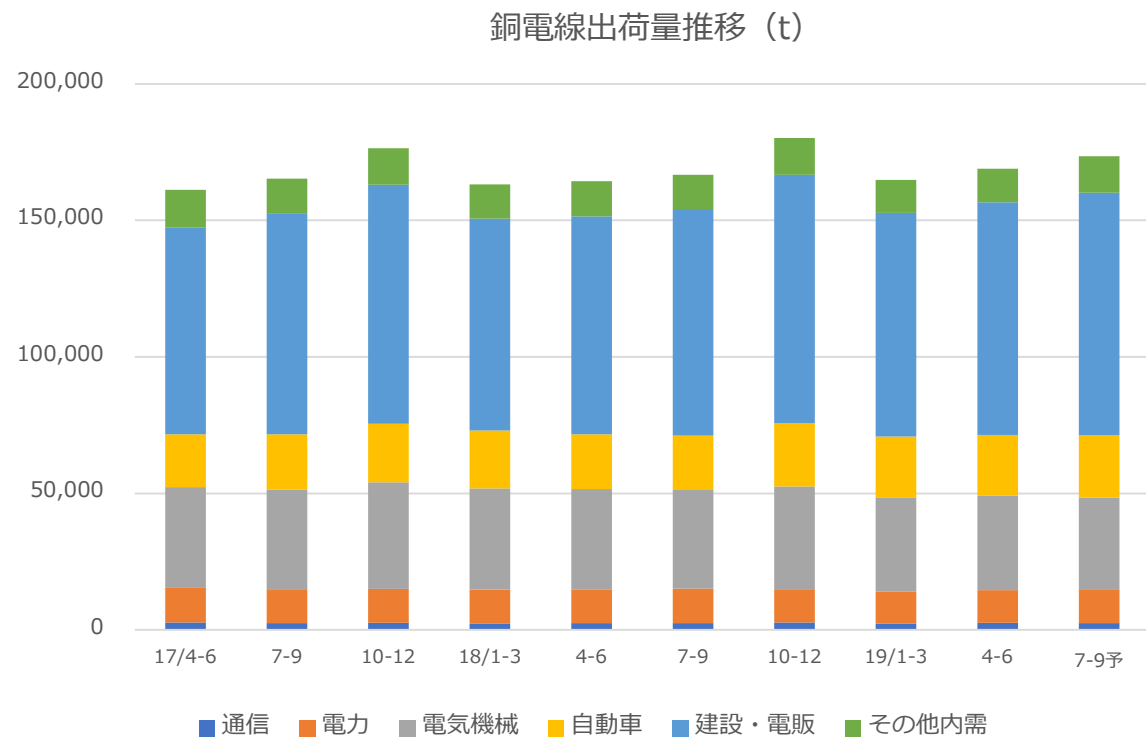


マクロ環境

- 国内銅価格（円ベース）は4月以降、中国景気減速もあり若干低下傾向（前年同期比▲12%）
- 国内の銅電線出荷量は、建設・電販を中心に安定的に推移。



出所：(社団) 日本電線工業会データより



出所：(社団) 日本電線工業会データより

2Q 連結損益計算書（前年同期比）

- 売上高は前年同期比+0.7%となり、売上総利益率13.6%と+2.2P改善。
結果、営業利益は前年同期比+88.8%の増益

(単位：億円)	2018年度 2Q実績	構成 %	2019年度 2Q実績	構成 %	前年同期比 %
売上高	853	-	859	-	+0.7%
売上総利益	97	11.4%	116	13.6%	+19.4%
営業利益	22	2.7%	42	5.0%	+88.8%
経常利益	18	2.2%	39	4.6%	+113.8%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	13	1.5%	28	3.3%	+118.9%

2Q セグメント情報（前年同期比）

- 今期より新セグメント体制を導入。エネルギー・インフラ事業が売上・利益牽引。通信・産業用デバイスは減収なるも、収益性が改善し増益。

(単位：億円)

	2018年度 2Q 実績		2019年度 2Q 実績		増減	
	売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益
エネルギー ・インフラ	387	10 (2.5%)	419	29 (6.9%)	+32	+19
通信・産業用 デバイス	176	10 (5.9%)	169	13 (7.8%)	△7	+3
電装・ コンポーネンツ	265	4 (1.4%)	247	2 (0.8%)	△18	△2
その他 (内新規事業)	25 (15)	△2 (△1)	24 (14)	△2 (△1)	△1	△0
合 計	853	22 (2.7%)	859	42 (5.0%)	+6	+20

2020年3月期 通期業績予想の上方修正

- 第2四半期までの好調な業績を背景に、通期業績の上方修正

(単位：億円)

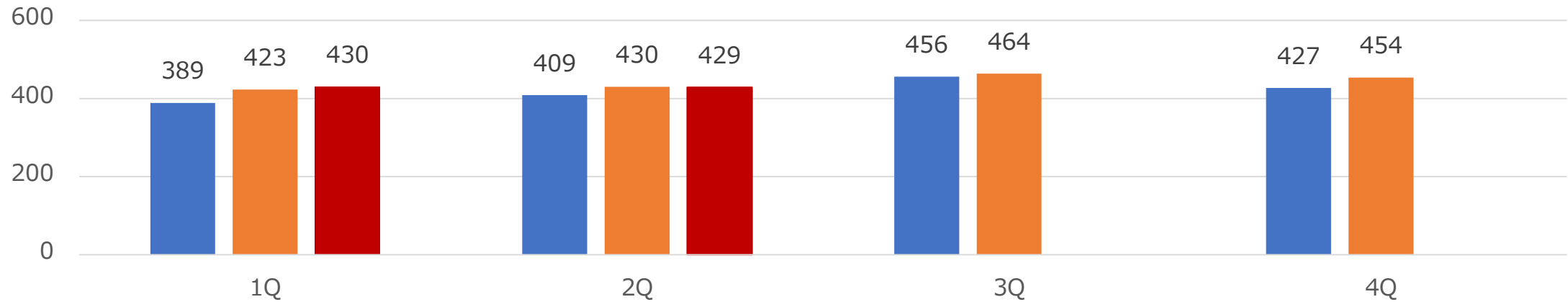
	2018年度 実績	構成 %	2019年度 当初計画	構成 %	2019年度 修正計画	構成 %	修正額	修正幅 %
売上高	1,771	-	1,730	-	1,730	-	-	-
営業利益	66	3.8%	65	3.8%	73	4.2%	+8	+12.3%
経常利益	56	3.2%	58	3.4%	66	3.8%	+8	+13.8%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	45	2.6%	45	2.7%	48	2.8%	+3	+6.7%

四半期業績推移（売上高：過去3期比較）

(単位：億円)

四半期毎の売上高推移

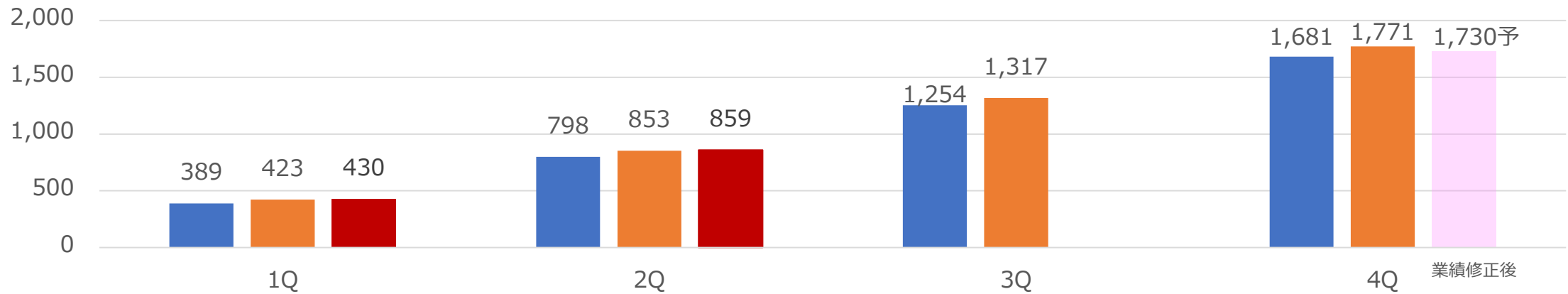
■ 2017年度 ■ 2018年度 ■ 2019年度



(単位：億円)

累計売上高推移

■ 2017年度 ■ 2018年度 ■ 2019年度

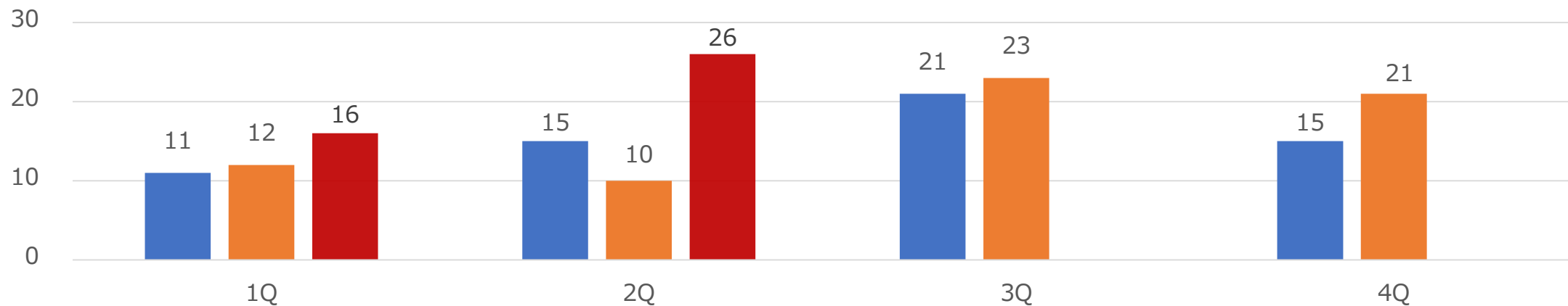


四半期業績推移（営業利益：過去3期比較）

(単位：億円)

四半期毎の営業利益推移

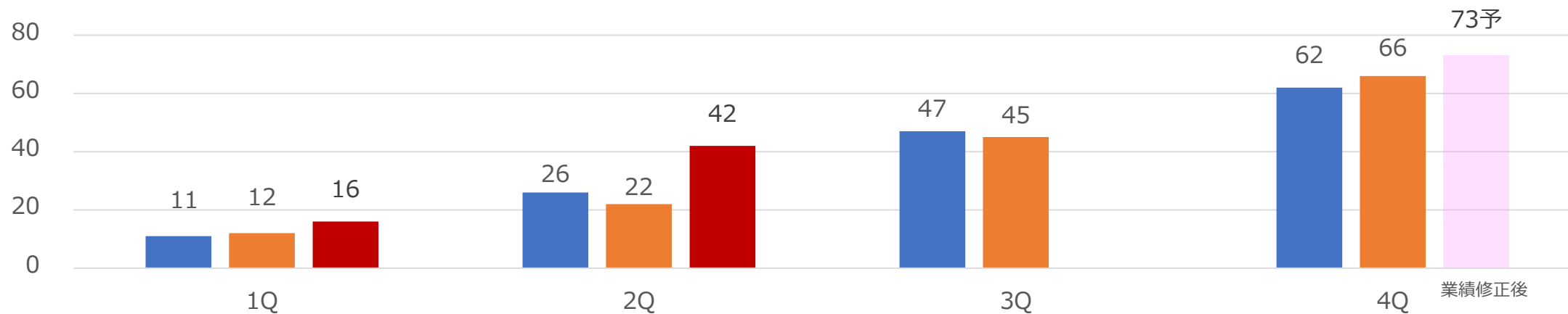
■ 2017年度 ■ 2018年度 ■ 2019年度



(単位：億円)

累計営業利益推移

■ 2017年度 ■ 2018年度 ■ 2019年度

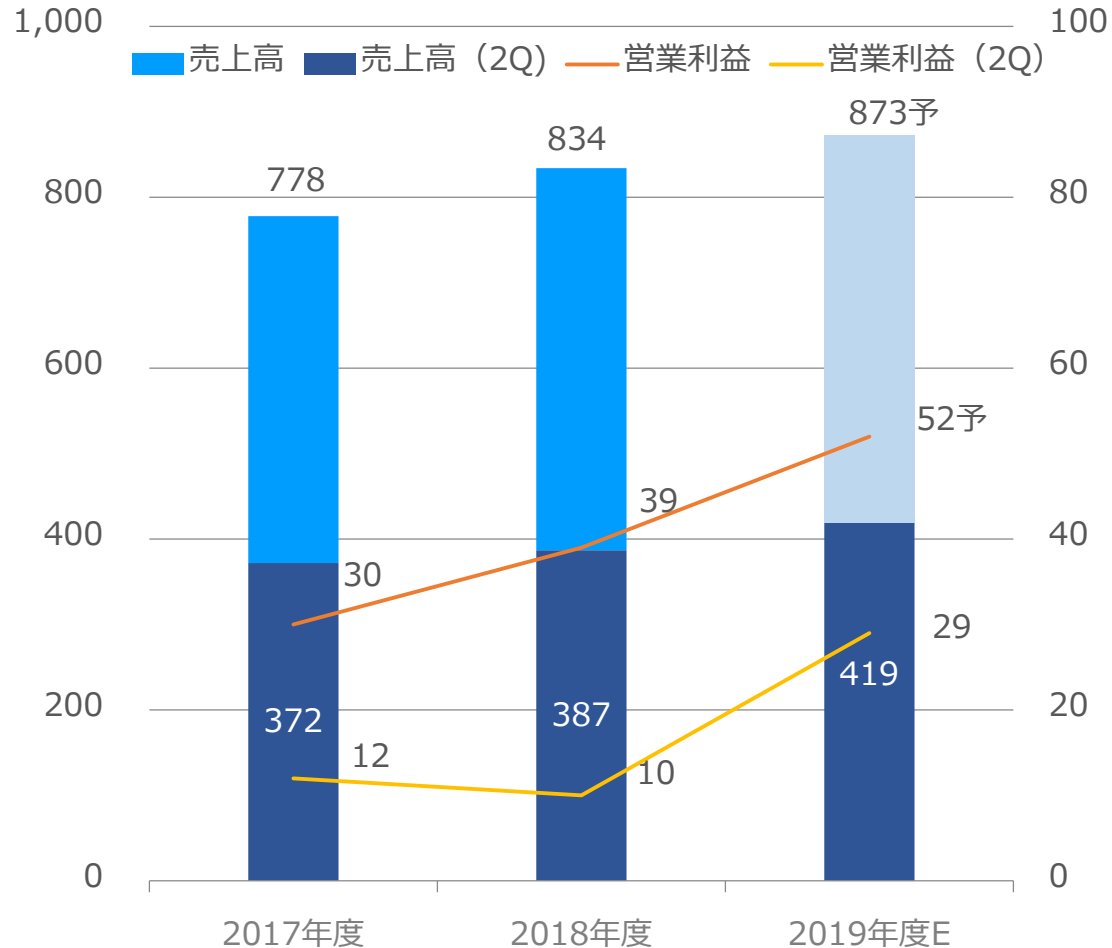


エネルギー・インフラ事業

実績&業績計画



(単位：億円)



※2017年度は当社で簡便的に試算した参考値です。

2019年度Eの予定は業績修正後の数値です。

■特徴：当社の基盤事業

- ①発電所から家庭までを繋ぐ電力ケーブル
- ②当社独自の電力機器部品「SICONEX®」
- ③建築物に使われる電線や免震部材

■東京オリンピック・パラリンピック需要等による建設関連向けや電力インフラの設備更新需要が引き続き堅調。

売上高419億円（前年同期比+8.3%）

営業利益29億円（前年同期比+198.2%）

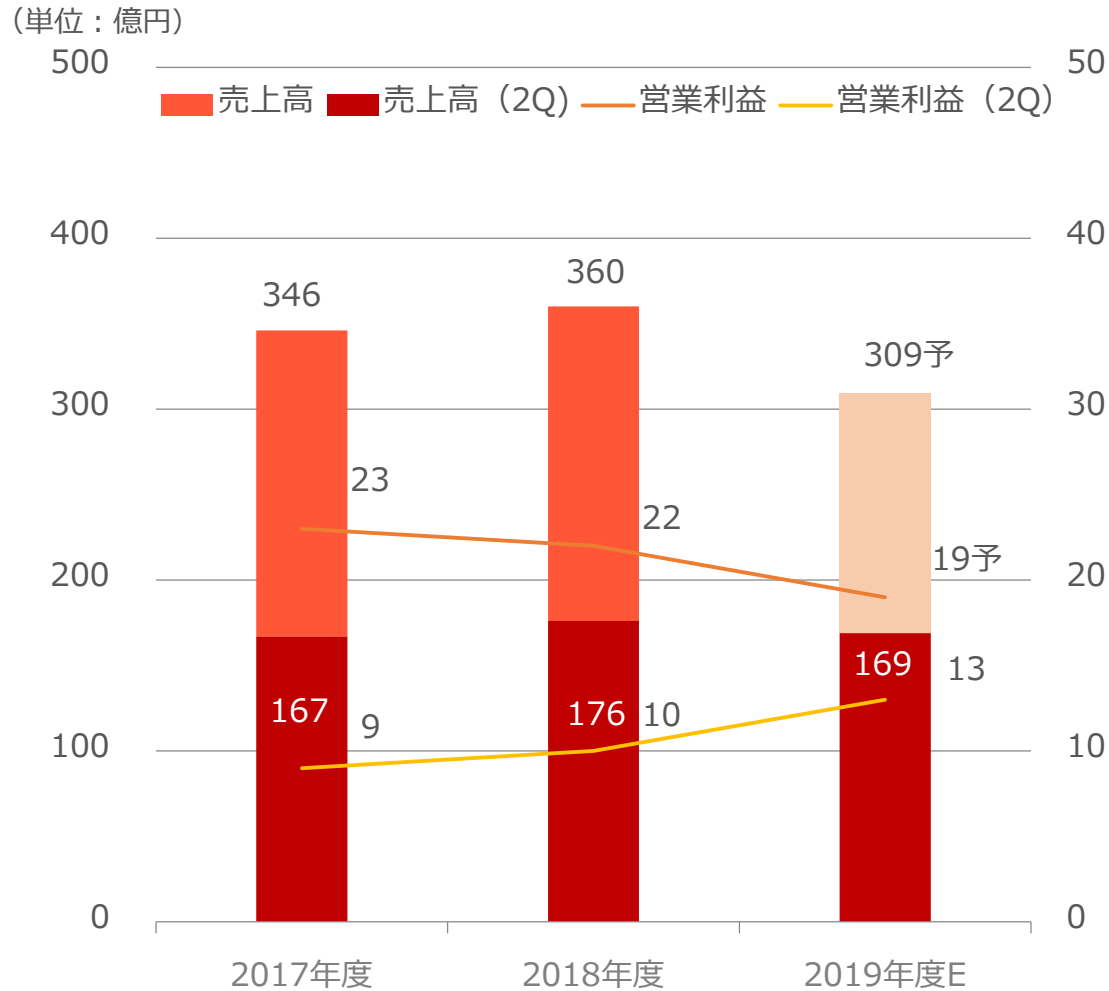
■通期計画：売上高は、建設関連向けや電力インフラ需要は引き続き堅調を維持し、前年度比+39億円の873億円。

営業利益は、前年度比+13億円の52億円。

営業利益率：6.0%（前年度4.7%）

通信・産業用デバイス事業

実績&業績計画



※2017年度は当社で簡便的に試算した参考値です。

2019年度Eの予定は業績修正後の数値です。

■ **特徴**：様々な市場に向けた通信ケーブルと産業用デバイスをグローバルに提供

■ **海外の光ファイバ需要は前年度下期から市場減速が継続。国内建設関連向け通信ケーブルは好調に推移。**

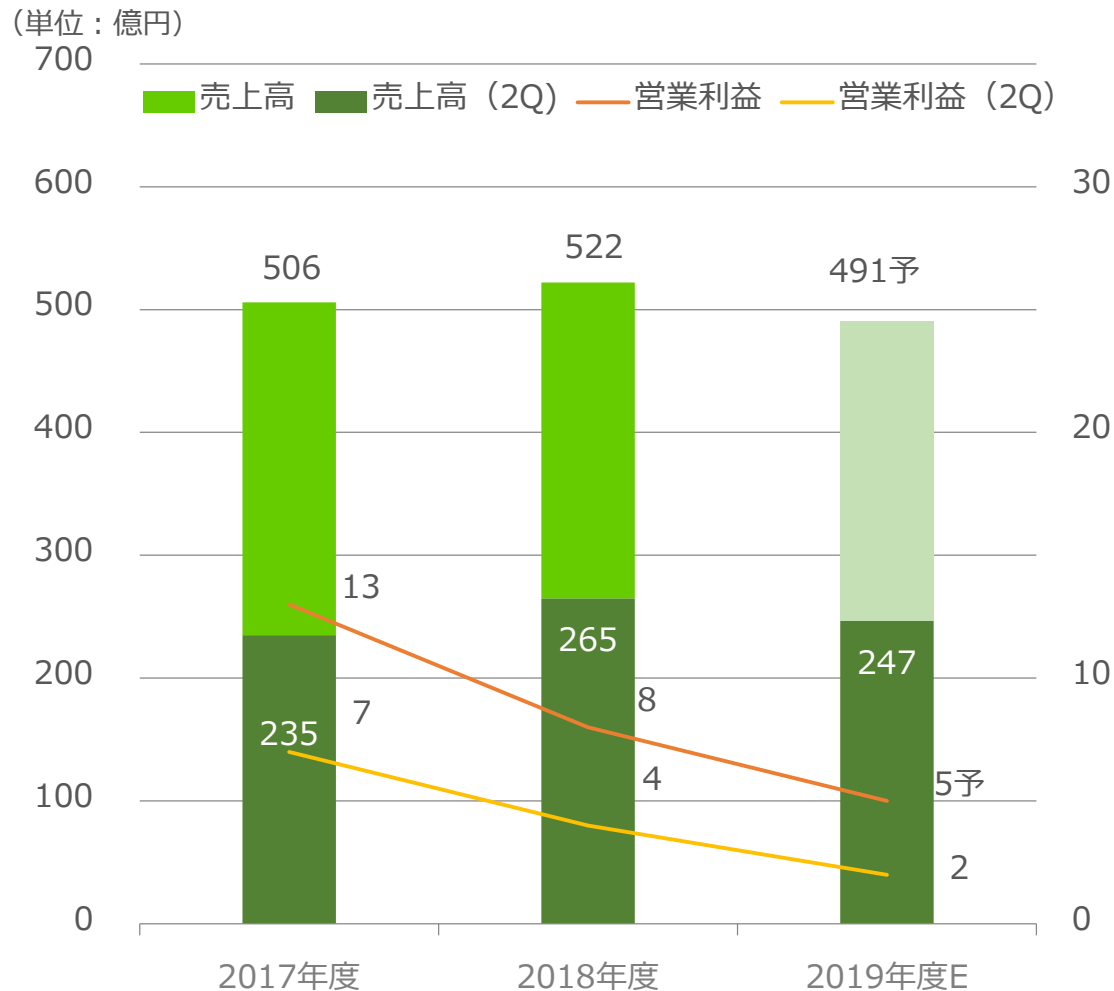
売上高169億円（前年同期比△4.4%）

営業利益13億円（前年同期比+26.1%）

■ **通期計画**：売上高は、国内建設関連向け通信ケーブルは堅調を維持するが、米中貿易摩擦等による需要停滞影響を受け、前年度比△51億円の309億円。

営業利益は、前年度比△3億円の19億円。

営業利益率：6.2%（前年度6.1%）



※2017年度は当社で簡便的に試算した参考値です。

2019年度Eの予定は業績修正後の数値です。

■ **特徴**：日本で唯一のディップ・フォーミングシステムで製造した無酸素銅MiDIP® と銅合金は戦略製品

■ 電装品向け高品位線材は堅調に推移したが、汎用巻線需要は全般的に低迷。
 売上高247億円（前年同期比△6.6%）
 営業利益2億円（前年同期比△46.5%）

■ 通期計画：売上高は、高品位線材の需要は引き続き堅調だが、今期の巻線需要の回復が見込めず、前年同期比△31億円の491億円。
 営業利益は、前年同期比△3億円の5億円

営業利益率：1.0%（前年度1.6%）

貸借対照表（前期末比較）

・ 自己資本比率は30.7%（前期末比2.6ポイントアップ）

（単位：億円）

	19/3/31	19/9/30	増減
現金・預金	49	40	△9
受取手形・売掛金	434	400	△34
棚卸資産	213	227	+14
その他	45	48	+3
流動資産 計	741	715	△26
有形固定資産	392	394	+2
無形固定資産	12	12	0
投資その他の資産	96	109	+13
固定資産 計	500	515	+15
資産 合計	1,241	1,230	△11

	19/3/31	19/9/30	増減
支払手形・買掛金	212	198	△14
短期借入金・社債	335	311	△24
その他	150	144	△6
流動負債 計	697	653	△44
長期借入金・社債	121	129	+8
その他	67	65	△2
固定負債 計	188	194	+6
負債 合計	885	847	△38
資本金	242	242	0
資本剰余金	55	55	0
利益剰余金	10	36	+26
その他	49	50	+1
純資産 合計	356	383	+27
負債・純資産 合計	1,241	1,230	△11



Creating for the Future

**昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）**

お問合せ先

昭和電線ホールディングス（株）
事業戦略統括本部経営企画部
TEL：044-223-0520
E-mail：kouho@hd.swcc.co.jp

<https://www.swcc.co.jp>



本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与える要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。